

令和4年度～令和6年度地域福祉プラン 取組数値目標

1.高齢者が最期まで安心して暮らせるまちづくり	主な具体的取組	現状（令和3年度末）	取組目標	目標評価時期	R4	R5	R6	目標達成のための具体的な取組方法(令和6年度)	令和7年3月末時点進捗状況	令和6年度目標達成の有無（○又は×を入力）
①健康保持・介護予防対策の強化	百歳体操拡充	拠点数 74か所 実施者数 1,350人	拠点数 80か所 実施者数 1,500人	計画終期 (令和7年3月末)	76か所 1400人	78か所 1450人	80か所 1500人	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、YouTube動画配信により効果のPRとともに、集合住宅での開催事例等について周知する(作成準備中)。 ・全16地域で地域健康講座を開催し、参加を働きかける(順次、実施)。 ・11/9「健康まつり」において百歳体操の周知・啓発を実施予定。 ・サポーターパワーアップ講座(1回目7/2、2回目2月)を開催し、運営側のスキルアップとモチベーションアップを図る。 ・包括等の関係機関と連携において社会福祉協議会に百歳体操拠点一覧を配布し参加者確保を図る(配布済)。 ・保健師が各百歳体操拠点を巡回し、運営者と課題の洗い出しと活動活性化に向け意見交換を実施する(順次、実施)。 ・百歳体操区民講座を実施(R6.6.6) 	67か所 1036人 ・6/6 区民講座「骨活といきいき百歳体操」を大阪市すこやかパートナー企業と実施 ・6/21 市民公開講座として、城東区医師会、済生会野江病院との共催で「認知症の理解と治療」の第2部に「しゃきしゃき百歳体操」を実施 ・7/2 サポーターパワーアップ講座①「お口の健康」実施 ・9/16 社会福祉協議会と協働しマンション自治会の敬老会にて「百歳体操」の健康講座を実施 ・地域連携協定企業「レッドハリケーンズ大阪」とコラボ ①9/19百歳体操実施拠点での交流を実施 ②10/9老人福祉センターでの交流を実施 ・11/9 健康まつりにて、百歳体操の周知・啓発を実施 ・2/28 サポーターパワーアップ講座②(拠点参加者にも案内)済生会野江病院認知症専門看護師、住みます芸人とコラボにて「認知症の理解と予防のお話」について講演会を実施	× 引き続き、全16地域での地域健康講座の実施と保健師が各百歳体操の拠点を巡回し、活動活性化に向けた意見交換を実施する。
②認知症対策の強化	オレンジサポーター等拡充	認知症サポーター 9,300人 オレンジサポーター 6人 オレンジパートナー 91団体	認知症サポーター 12,000人 オレンジサポーター 48人(全地域) オレンジパートナー 120団体	計画終期 (令和7年3月末)	10,000人 16人 100団体	11,000人 32人 110団体	12,000人 48人 120団体	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌特集記事の掲出のほか、区社協と連携し、認知症に関する啓発、支援者の掘り起こしを進めていく。 ・各地区の民生委員や百歳体操運営者をオレンジサポーターとして養成していくべく、働きかけを実施する。 ・特に保健師が百歳体操拠点を巡回し、各運営者にオレンジサポーター養成講座受講を働きかけ、オレンジサポーターの増につなげていく。 	認知症サポーター 11,392人(うちR6 618人増) オレンジサポーター 68人(うちR6 24人増) オレンジパートナー 135団体(うちR6 6団体増)	認知症サポーター × オレンジサポーター ○ オレンジパートナー ○ 今後も区社協と連携し、認知症に関する啓発、支援者の掘り起こしを進めていく。
③要介護者の見守りと、災害時要援護者支援の強化	福祉的視点を踏まえた避難所運営 個別避難計画作成支援	福祉的視点での避難所運営を盛り込んだ防災マニュアル 5地域	福祉的視点での避難所運営を盛り込んだ防災マニュアル作成(全地域) 個別避難計画作成(全地域)	計画終期 (令和7年3月末)	16地域 12地域	16地域 16地域	16地域 16地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における防災訓練の打合せの機会に、福祉的視点を取り入れることを促していく。 ・令和6年度の避難行動要支援者名簿の更新、令和7年度の完成に向けて地域との連携を進めていく。 	福祉的視点での避難所運営を盛り込んだ地区防災計画・マニュアル 16地域 個別避難計画の作成を完了した地域 16地域	○
④地域包括ケアシステムの充実強化	区民周知と地域においてACPを促進するための取組み	区広報紙(ACP川柳)6回 ネットワーク会議 3回	区広報紙等による周知啓発(特集年2回) 啓発ツールを活用した地域でのACP啓発の取組(全地域)	計画終期 (令和7年3月末)	実施 16地域	実施 16地域	実施 16地域	<ul style="list-style-type: none"> ・区HPを定期的に更新。 ・広報誌11月号において特集記事を掲載、区民周知啓発を実施予定。 ・ACP地域普及推進サポーター養成研修を実施予定。 ・ネットワーク会議において災害時においてもサービスを継続していくため、医療・介護におけるBCPについて検討。 	・実施(16地域) ACP地域普及推進サポーターが各地域でACP普及推進活動を展開、ACP地域普及推進サポーター意見交換会を実施。 ・ネットワーク会議開催(6回)、区HP定期更新。	○

令和4年度～令和6年度地域福祉プラン 取組数値目標

2. 障がい者が豊かな人生を過ごせるまちづくり	主な具体的取組	現状（令和3年度末）	取組目標	目標評価時期	R4	R5	R6	目標達成のための具体的な取組方法(令和6年度)	令和7年3月末時点進捗状況	令和6年度目標達成の有無（○又は×を入力）
①障がい者の福祉避難所システム構築	福祉避難所運営マニュアルの策定及び福祉避難所運営に関する講習会開催	—	福祉避難所運営マニュアルの作成、配付 福祉避難所運営に関する講習会開催	計画終期 (令和7年3月末)	作成	配付 実施	配付	9月 自立支援協議会において、福祉避難所運営マニュアルを配付	6/13 自立支援協議会において、区防災・防犯担当から、防災に関する基本的事項を説明。 9/9自立支援協議会において、福祉避難所運営マニュアルを配付、見直し検討。 12/5自立支援協議会において、事業所、民生委員、地域福祉支援員が参加し、福祉避難所に関するグループワーク実施。今後も引き続き実施予定。 福祉避難所事業所一覧を更新作業中（区福祉担当、区防災・防犯担当、自立支援協議会で共有）。一覧を実効あるものとするため、今後も引き続き体制を検討。	○
②障がい者スポーツの振興	スポーツを通じた障がい者理解の促進	—	ポッチャ等障がい者スポーツの開催数 年1回以上、参加者数 1回100人以上	毎年	実施	実施	実施	・自立支援協議会と連携し、ポッチャ大会を開催するなど、障がい者スポーツの振興を図る。 ・自立支援協議会との共催でポッチャ大会inピアフェスタを開催する。（子どもの参加を見込める時期、時間帯を検討） ・障がい者週間（12月）において、障がい者スポーツの取組みについて、区民ギャラリーを使って周知啓発する。 ・障がい者スポーツの地域展開を図るため、ポッチャボールセット、審判セットを各地域に配付する（継続）。また、大学と連携し、ポッチャ指導者講習会を地域で開催する。	5/20 自立支援協議会との共催でポッチャ交流大会を開催（参加者等 100名）。 9/12・9/25 車いすバスケットボールの校長会周知。 10/18 自立支援協議会との共催でポッチャ交流大会を開催（参加者等 116名）。 11/9 健康まつりにてポッチャ体験コーナーを開設（参加者 約30組）。 11/30 ポッチャ普及指導員講習会を開催（城東スポーツセンター）（参加者 20名）。 3/2 ポッチャ普及指導員講習会を開催（大阪公立大学 Well-being 共創研究センター）（参加者27名）。	○
③障がい者の権利擁護	基幹相談支援センターと相談事業所との連携による相談会や研修会の開催	—	相談会・研修会実施	毎年	実施	実施	実施	自立支援協議会と共催による研修会等実施。	随時 相談支援従事者を対象にしたインターバル研修において、障がい者虐待問題取扱い。 2/6 自立支援協議会と民生委員による、障がい者の自立支援に向けた勉強会を開催。 3/6 後見等の支援につなげられるよう、福祉局を通じて障がい者虐待事例を他区に発信、情報共有を実施。	○
④障がい者サービス等の情報発信	障がい者事業所ハンドブック等の作成	—	障がい者事業所ハンドブックの作成、配付	計画終期 (令和7年3月末)	作成	配付	配付	自立支援協議会HP及び区HPに掲載している事業所一覧情報について、随時、情報更新を進める。	自立支援協議会HP及び区HPで随時更新し、掲載。	○

令和4年度～令和6年度地域福祉プラン 取組数値目標

3. こどもが安全安心に暮らせるまちづくり	主な具体的取組	現状（令和3年度末）	取組目標	目標評価時期	R4	R5	R6	目標達成のための具体的な取組方法(令和6年度)	令和7年3月末時点進捗状況	令和6年度目標達成の有無（○又は×を入力）
①教育現場でのこどもへの気づきの強化	こどもサポートネット等を通じた教育現場での気づき	スクリーニング数 72件 未実施2校	こどもサポートネットでのスクリーニング数（令和3年度比20%増） 全校実施	計画終期 （令和7年3月末）	令和3年度比 10%増 全校実施	令和3年度比 20%増 全校実施	令和3年度比 30%増 全校実施	・小・中学校における実務者研修会の実施や保護者向け周知チラシの配布等を通じ、教育現場での気づきの強化につなげる。	スクリーニング数 201件 全校実施	○
②地域とこども・保護者のつながり強化	子育てサロンやつどいの広場などを通じた地域とこども・保護者のつながり強化	つどいの広場の利用者数 13,332人	子育てサロンやつどいの広場の利用者数 （令和4年度実績の20%増）	計画終期 （令和7年3月末）	実施	10%増	20%増	・広報紙やリーフレットの活用や、訪問事業での周知により、地域活動への周知を積極的に行う。	つどいの広場の利用者数 63,203人	○
③ヤングケアラーへの対応	ヤングケアラー連絡窓口、こどもサポートネット、家庭児童相談等により把握した件に必要な支援につなぐ等により、改善を図る。	100%対応（3件）	把握した案件に対して何らかの対応した割合（100%） 年度当初に把握している案件のうち、年度内に改善した割合（50%以上）	毎年	実施	実施	実施	・区ホームページでの広報など取組みを広く周知することにより案件の把握に努め、把握した案件については速やかに必要な支援につなげる。	100%対応（7件） ※令和5年度分は100%改善済み	○
④不登校への対応	区役所等の各種取組による支援	・JOTOふらっと教室 59人 ・こどもサポートネット 72件 ・子育て相談 49回	区役所等の各種取組による支援の総件数の前年度比増	毎年	前年度比増	前年度比増	前年度比増	・チラシ等を活用した取組みの周知、スクール・サポート・ルーム（SSR）の整備の拡充など、小・中学校等関係機関と連携しながら支援を強化していく。	・JOTOふらっと教室 108人 ・こどもサポートネット 201件 ・子育て相談 73回（※） ・学校内における不登校児童生徒の居場所スクール・サポート・ルーム（SSR）整備済校の利用人数 計3,880人 ※SSR等不登校対策関係事業の充実により相談件数として減少したものであり目標は達成している	○
⑤こどもを支援する地域資源の発掘と連携強化	子ども食堂、フリースクール等との連携	13団体 区社会福祉協議会登録団体12団体 こどもサポートネットの具体的対応団体1団体（3件）	区社会福祉協議会登録団体とこどもサポートネットの具体的対応団体の合計数20団体以上	計画終期 （令和7年3月末）	17団体	19団体	20団体	・あらゆる機会に区社会福祉協議会や地域と情報共有・意見交換を実施するなど、連携の深化を進める。	23団体 区社会福祉協議会登録団体 23団体 こどもサポートネットの具体的対応団体 0団体（0件）	○

令和4年度～令和6年度地域福祉プラン 取組数値目標

4. ウイズコロナ・アフターコロナの時代に応じた新たな地域福祉、ネットワークの構築	主な具体的取組	現状（令和3年度末）	取組目標	目標評価時期	R4	R5	R6	目標達成のための具体的な取組方法(令和6年度)	令和7年3月末時点進捗状況	令和6年度目標達成の有無（○又は×を入力）
①社会的なつながりが希薄な世帯支援、気にかける地域づくりの推進	気にかける地域づくりの取組み	気にかける取組み事業数 2	地域における気にかける取組み事業 全地域	計画終期（令和7年3月末）	4地域	10地域	16地域	各地域の地域福祉活動について「気にかける地域づくり」の取組みの推進について、区社協や地域と連携して取り組んでいく。	「気にかける地域づくり」について、全地域で実施。	○
②総合的な相談支援体制の強化	つながる場や支援会議等関係者のスキルアップ	職員向けスキルアップ研修会の開催	スキルアップのための研修会等開催（対象者拡充）	毎年	実施	実施	実施	・他区や区役所以外の専門機関も対象にした合同研修会を開催し、スキルアップとともに連携の深化を進める。 ・総合的な相談支援体制研修会を開催する。	・3区（城東・鶴見・旭区）合同研修会を9月12日に開催した。	○
③地域福祉活動の担い手の発掘	これまで地域福祉活動に参加したことがない層に対する、ゆるやかな見守りを促進するための啓発	—	啓発チラシ、ホームページ、広報紙等による啓発活動	毎年	実施	実施	実施	・区広報誌や区HP、多様な参加者が出席する関係者会議や研修会を通じ、身近で活動できる地域福祉の取組みを広く周知・啓発（認知症支援等）。 ・ポッチャボールセット、審判セットを地域に配付し（継続）、身近な場所で障がい者、高齢者、こどもがスポーツを通じて触れ合える環境をつくり、地域福祉への関心を深め、担い手育成につなげる。 ・森之宮スマートエイジングの取組みを通じ、高齢者の福祉・健康支援に多様な主体を取り込んで進めていく。 ・各地域の地域福祉活動の中で担い手を発掘。	・認知症の支援層を拡充するため、区広報誌9月号に特集記事を掲載。 ・障がい者スポーツの地域展開、大学を含めた団体連携について検討。11/9健康まつりのポッチャ体験コーナー開設のため、大阪公立大学に協力依頼。11/30、3/2ポッチャ普及指導員講習会の開催のため、大阪公立大学に協力依頼。 ・スポーツ・レクリエーション協会やスポーツ推進委員を対象にしたポッチャ指導員講習会について、検討、調整を進めている。 ・障がい者スポーツ振興の取組HPにおいて、ポッチャ交流大会（5月・10月）の当日の様子を掲載。 ・3/28自立支援協議会児童部会による、児童発達支援、放課後等デイサービス利用者を対象としたレクリエーション大会を開催。	○
④関係機関間の連携強化	関係機関間の課題共有・連携の場づくり	複数の関係機関間連携による研修会開催 6回	各種関係会議、研修会等を活用した課題共有、意見交換の場の設定年8回以上	毎年	実施	実施	実施	・多様な主体と連携した会議（プラットフォーム）等において、直面する福祉等の課題を共有し、課題解決に向け検討していく。 ・多職種研修会を定期的に開催し、多職種間で課題の共有と解決に向けたスキルアップや意見交換を進めていく。	・医療・介護連携ネットワーク会議（6回） ・森之宮スマートエイジング会議（5回） ・自立支援協議会・大学等と連携した医療的ケア児支援のための検討会議（6回） ・社会福祉施設連絡会（5回） ・自立支援協議会共催ポッチャ交流大会（5月・10月）開催（民生委員、地域福祉支援員、地元企業等参画） ・多職種研修会の開催	○

※「—」はなし又は不詳